

## 令和 7 年度学校自己評価及び学校関係者評価表

学校名：武蔵村山市立小中一貫校大南学園第四中学校 校長名：福泉 宏介

|                                                                                                                                                                               |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【経営理念】小中連携を通して「知・徳・体」の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成を図る。<br>○ 生徒の生命を第一に考え、生徒にとって心身ともに安全で安心な学習環境を整える。<br>○ 基礎的・基本的な知識・技能の定着と学習意欲の向上、探究的な学びを目指す。<br>○ 自他を大切に作る心もち、協働により互いを尊重しながら正義の通る集団を育てる。 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

| 評価 |                   |
|----|-------------------|
| A  | 十分に達成している。(80%以上) |
| B  | 概ね達成している。(60%以上)  |
| C  | あまり十分でない。(40%以上)  |

| 【学校運営協議会・会長】   |      |        |     |
|----------------|------|--------|-----|
| 学校運営協議会（学校評価分） |      |        |     |
| 第1回            | 令和7年 | 4月23日  | (水) |
| 第2回            | 令和7年 | 11月19日 | (水) |
| 第3回            | 令和8年 | 2月18日  | (水) |

| 項目         | 計画・取組                                                                                                                                     |                                                                                                                     |                                                                                                                    | 自己評価（令和8年1月27日現在）          |    |                                                                                                                        |                                                                                                 | 学校関係者評価                                                                                 |    |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|----|
|            | 重点目標                                                                                                                                      | 具体的取組                                                                                                               | 評価指標・目標値                                                                                                           | 到達度（%）                     | 評価 | 分析コメント                                                                                                                 | 今後の改善方策                                                                                         | 意見                                                                                      | 評価 |
| 確かな学力の向上   | ○ 言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力を養い、生徒一人一人が主体的に学習に取り組む態度を育てる。<br>○ 学習の習熟が不足する生徒に、放課後や長期休業日を利用して補充的な学習を実施する他、日常の小テストや自学ノートを活用して基礎学力を高める。            | 各教科等の授業においてねらいを明示して学習に見通しを持たせ週条理に振り返りを行うこと、ICTの有効活用を図ること、協働的な学びの場を授業内に設定することにより、主体的に学ぶ態度の育成と学んだ内容の定着を図る。            | 学校評価アンケート（生徒・保護者）の「学校は生徒に分かりやすい授業を行い、生徒の基礎・基本の定着に力を尽くしている。」の項目について、肯定的な回答を75%以上                                    | 生徒121%<br>保護者95%           | B  | 教員の授業改選の意識は高く、授業改善を行った結果が生徒に理解されていると考える。ねらいの明示や振り返りの実施などは定着してきている。<br>なお、数値は平均のため、一部教科の理解・定着状況には課題がみられる。               | テストの点や成績といった見える形で、また、全教科の平均ではなく全教科で到達度を越えられるよう、全ての教科で更なる授業と指導の改善を図る。                            | 授業のゴールや手順が分かる<br>と何をすべきか自ら考え行動できるようになって良い。<br><br>先生方は頑張っている。                           | A  |
|            |                                                                                                                                           | 自主学习ノートの取組の徹底や日常の小テスト等の実施により、基礎・基本の徹底とその活用による思考力・判断力・表現力を養う。習熟の度合いに応じて学習教室を活用させる。                                   | 【全校共通】市学力調査にて、（小5・中2）の平均正答率が同一学習集団の前年度値（小4・中1時）を上回っている。                                                            | 国語117%<br>数学102%           | B  | 国語も数学も、昨年度から数値は上がっている。特に、基礎問題については正答率が目標値を上回っている。一方で、活用問題の正答率や記述式解答の問題に課題がみられた。                                        | 基礎的な事項の指導の充実を継続していくとともに、知識・技能を活用して思考・判断・表現する力を伸ばす指導の工夫・改善に具体的に取り組んでいく。                          | 基礎学力の定着に向けた支援と主体的に学ぶ育成に継続して取り組んでいる。                                                     | A  |
| 豊かな心の育成    | ○ 自他を大切に作る心を養い、いじめを許さない指導を徹底するとともに、思いやりの心を育て、偏見や差別をなくすために人権教育・道徳教育を推進する。<br>○ いじめ・嫌がらせ等の問題行動や不登校の未然防止に組織的に取り組み、正義の通る集団に育てていく。             | 道徳授業を教員がローテーションにより授業を行うことで、生徒に多様な事例や価値観を示しながら教科横断的・相乗的な指導を行い、生徒の心を耕す。                                               | 学校評価アンケート（生徒、保護者）において、「道徳の授業で心の成長を感じることがある（促している）」の項目で肯定的な回答を80%以上                                                 | 生徒98%<br>保護者80%            | B  | 教員のローテーションによる授業の実施や、授業の中で道徳的価値について考える場面・話し合う場面を設けることで、目標値に近い割合の生徒に実感をもたせることはできている。保護者の実感はまだ十分ではない。                     | 道徳的判断力と実践意欲を更に育てられる道徳授業の充実を図っていく。また、全ての教育活動を通して道徳教育を行うとともに、その振り返りを行う機会をもち、生徒の心の成長が実感できるようにしていく。 | 今後も安心して過ごせる集団づくりの推進を期待している。                                                             | B  |
|            |                                                                                                                                           | 定期的なアンケートの結果を分析・活用し、全教員で共通理解を図りながら一人一人を大切に<br>する生徒指導の徹底を図る。必要に応じて外部機関とも連携を取り、個に応じた対応の充実を図る。                         | 学校評価アンケートの「担任やスクールカウンセラーは、一人一人を大切に<br>する指導を行っている。」の項目で、肯定的な回答を80%以上                                                | 生徒72%<br>保護者89%            | C  | 生徒にとって教員やカウンセラーへの相談は、ハードルの高さを感じたりする場面があるようである。                                                                         | 困ったときに相談できる大人として、教職員が生徒との信頼関係を更に高め、学校としての相談体制や生徒指導の充実を図る。                                       | 生徒一人一人を大切にされる教育をしていることはとても良い。安心して学べる場所として学校がある。                                         | B  |
| 健やかな体の育成   | ○ 生徒の安心・安全を第一に考え、健康・防災・防犯の安全な学校生活のための共通理解を図り、組織的に対応する。健康的な生活を送るための規則正しい生活や食生活の充実について、全教員で指導する。<br>○ 保健体育科の授業や体育的行事をはじめ、様々な取組から生徒の体力向上を図る。 | 生活指導部を中心に行事や委員会活動を通して全教職員の共通理解の下で取組を推進し、生徒の健康・安全の意識を高める。                                                            | 学校評価アンケートの「身体の健康と安全について注意して生活している」「生徒の安全・健康面への対応をしっかりとしている」の項目について肯定的な回答を80%以上                                     | 生徒106%<br>保護者110%          | A  | 健康と安全については、生徒も高い意識をもって生活できていると考える。保護者もそれを支えるように協力していただいている様子が分かる。                                                      | 本校が標榜する「安全で安心な学校」の実現に向けて、学校としても環境整備と指導の充実に努めていく。                                                | 食育や生活リズムなど、自らの健康を意識して細かく振り返ることですらに認識が深まるのではないか。                                         | A  |
|            |                                                                                                                                           | 保健体育科の授業における指導をはじめ、運動部活動、運動会の自主的な取組やランニング・ウォーキングイベント等の実施により、生徒の体力向上の意欲を高める。                                         | 【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小5・中2）において総合評価「C」以上の割合が60%以上又は総合評価「C」以上の割合が令和6年度調査との比較で向上している。                             | 128%                       | A  | 総合評価「C」以上の割合は76.6%となっている。また、生徒アンケートで「体育の授業に意欲的に取り組んでいる」の肯定的回答が88.4%となっており、授業を起点として、行事や部活動等でも体力向上の意識をもてていることによるものと考ええる。 | 運動を得意としない生徒であっても健康の保持・増進及び体力向上の意識を高めていけるよう、保健体育の授業や体育的行事の充実に引き続き取り組んでいく。                        | 体力づくりの取組で体力向上が図れていてよいと思う。                                                               | A  |
| まちづくり学習の充実 | 総合的な学習の時間に「まちづくり学習」を設定し、それを柱に各教科等の指導と関連を図りながら指導の充実を図る。また、探究的・体験的な学習活動を保護者、地域と連携して進め、よりよい地域づくりのために主体的に考え、行動する態度とそのため<br>の資質・能力を育てる。        | 総合的な学習の時間に「自分の生き方を発見する」を全学年テーマとして設定し、職業理解、体験的課題解決、伝統・文化理解や教科横断的な学習を通して、地域の一員として現代的な諸課題に対応する資質・能力を育てる。               | 学校評価アンケートの「職業調べ、進路学習等を通して将来の生き方や進路について考えるようになった。」の項目について、肯定的な回答を80%以上                                              | 生徒107%<br>保護者107%          | A  | 関係機関と連携した職業講話や職場体験はじめ様々な機会を通して生徒が自ら進路について考える機会を提供することができていると考える。                                                       | 小中一貫校の視点も踏まえて9年間のキャリア教育の流れを確認しながら、生徒に将来について考えさせる指導の更なる充実を図る。                                    | 地域との連携が必要。地域として何ができるかを見つけていきたい。                                                         | A  |
|            |                                                                                                                                           | 学年単位で具体的な課題を設定し、探究的・体験的な学習活動を通して情報の収集・選択・活用、プレゼンやポスターによる発信を行い、主体的に取り組む態度と情報活用能力・発信能力を養う。                            | 【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答を70%以上               | 生徒117%<br>保護者92%           | B  | 生徒は自ら課題を設定し、それに対して真摯に取り組む、体験したり問題解決を図ったりしている様子が評価されたものと考ええる。保護者はその様子を知る機会が少ない（「分からない」が26.2%）ものと考えられる。                  | 今後も生徒の取組の充実に向けて、第七小<br>学校と連携しながら指導していく。<br>また、保護者がこの取組を知る機会を、情報発信以外の方法で検討し、今まで以上に発信していく。        | 未来の地域づくりにもつながる「まちづくり学習」を保護者にも興味を持たせるように取り組んだり、体験できる「何か」があれば良いがなかなか頭に浮かばない。              | A  |
| 学校裁量       | 小中一貫校基準「自分の考えを、理由を添えて説明できる児童・生徒」を、小中連携による学習指導や行事の実施を通して育てる。                                                                               | ① 話し合い活動を通して小中一貫校基準を育む授業の在り方について、小中相互の授業参観等の取組により共通理解を図り、日々の指導に生かす。<br>② 行事やボランティア活動等の連携を通して、自分の考えをもち主体的に行動する生徒を育む。 | ① 学校評価アンケート（生徒）において「私は、自分の考えについて理由をそえて述べる事ができている。」の項目について肯定的な回答を70%以上<br>② 学校評価アンケート（生徒、保護者）の小中連携の項目において肯定的評価75%以上 | ①105%<br>②生徒103%<br>保護者98% | B  | 小中一貫の取組については、特に行事等について概ね理解していただけている状況である<br>と考える。<br>生徒の状況については、話し合いの場でできる<br>よう、更に指導の工夫が必要と考える。                       | 小中一貫教育の取組の目標と内容を見直し明確にするとともに、普段の授業等様子等について随時情報発信したり、学校運営協議会の協力を得ながら推進していく。                      | 小中一貫教育が充実してきている<br>ようで良いと感じる。学校運営協議会の合同化で、協力がしやすくなると思う。<br><br>教員が授業の中で「わけそえ」を意識できるとよい。 | A  |

※ 到達度＝ 達成値／目標値